

特集：市民参加で自然しらべ

身の回りの自然や生き物について調べてみることに。小学校での授業や自由研究などもふりかえってみれば、おそらく誰もが一度は取り組んだことがあるのではないのでしょうか。そして、そうした身近な自然しらべは、自然に関心をもつ、自然を大切に思う、まずその第一歩だと思います。

今回の特集では、そんな自然しらべを、一人ではなく様々な方と共同して行う取り組み—市民参加で自然しらべ—についてとりあげます。昨年度に策定された「生物多様性ながの県戦略（コラム参照）」でも、「生命（いのち）にぎわう『人と自然が共生する信州』の実現」という中長期目標のための行動計画のなかで、「生物多様性の価値を調べ共有する」ことはその筆頭にあげられていま

す。「市民参加で自然しらべ」は、そんな行動計画にまさに即した活動ともいえます。

市民参加型で自然しらべを始める、つづけることの根底には、何より同好の方々と一緒に自然を調べることの“楽しさ”や“達成感”があると思います。一方で、そんな“楽しさ”や“達成感”をもちつづけ、成果をまとめるためには、様々な工夫や苦勞があります。この特集では、当所で着手した取り組みのほか、県内外で、特に地域の植物を対象にした取り組みで実践・実感している“楽しさ・達成感”と“工夫・苦勞”をご紹介します。

（尾関雅章・横井 力）

コラム「生き物アンテナプロジェクト」

—昨年 2010 年に、国連生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）が名古屋市で開催されました。その成果の一つとして、生物多様性に関する 2011 年以降の新たな世界目標となる『愛知目標』が採択されました。そして、その目標を達成させるための工程表となる『生物多様性国家戦略』の見直しが現在すすめられています。

長野県でも、生物多様性の保全に関する施策や活動の指針となる『生物多様性ながの県戦略』が昨年度末に策定されました。そこでは、直面する課題に対応するための重点施策として 5 つのプロジェクトが提言されており、そのうちの一つに「生き物アンテナプロジェクト」があります。このプロジェクトの一環として、県民参加型の長野県版レッドリストの改訂事業が今年度から開始されました。これは、県民参加による生物多様性の調査により、長野県で絶滅のおそれのある生き物を集めたレッドリストの改訂を実施するものです（植物については平成 25 年度、動物については平成 26 年度に改訂結果を公表の予定です）。

まだ改訂作業ははじまったばかりですが、県民参加のための試みとして、県内の生物多様性について情報をお寄せいただくための入力フォームをホームページに

用意しました。お寄せいただいた情報をもとに、現地調査の実施等をすすめたいと考えています。ぜひ一度ご覧いただき、レッドリスト改訂にご協力ください。

（自然保護課）

『生物多様性ながの県戦略』

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/hogo/biodiv/index.html>

『生き物アンテナプロジェクト』

長野県の希少野生動物植物生息・生育情報の

募集について

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/hogo/redlist/index.htm>

